

Ikuyo Nakamichi Piano Recital

# 仲道郁代

ショパンを弾く  
～円熟と哀しみ～

## 《オール・ショパン・プログラム》

ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」 op.53

ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」 op.64-I

バラード 第3番 変イ長調 op.47

バラード 第4番 ヘ短調 op.52

マズルカ op.59 より

マズルカ op.68-4 ヘ短調(遺作)

ポロネーズ 第7番 変イ長調「幻想」 op.61 ほか

2024 **1.21** (日) 14:00開演 (13:00 開場)  
全席指定 4,500円(税込)

プレイガイド

■e+（イープラス） <https://eplus.jp/symphonyhall/> (パソコン・携帯)  
■ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonyhall/> [Lコード: 54236]  
■チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonyhall/> [Pコード: 244-928]

ご予約・お問合せ

ザ・シンフォニーホール  
主催：ザ・シンフォニーホール

ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonyhall.jp>

※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。※公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

Ikuyo Nakamichi Piano Recital

# 仲道郁代 ショパンを弾く ～円熟と哀しみ～

仲道郁代にとって、ショパンはピアニストとしてのテーマのひとつである。

ショパンの演奏法やプレイエルについて深い見識を持つ仲道は、長年にわたりショパンの人生と音楽にじっくりと対峙し続けている。そのこまやかな感性を通して、彼の創作の深部に迫り、殊に内面の逡巡まで掬い出すアプローチは、仲道だからこそなせる業である。また、ショパンの時代の楽器を用いた演奏で、彼の作品について独自の解釈を行い、広く注目されている。

昨年、仲道はザ・シンフォニーホールでオール・ショパン・プログラムに挑み、彼の初期の創作をとりあげた。今年のリサイタルも、すべてショパンの作品。恋人のジョルジュ・サンドとの日々のなかから生まれた《バラード》第3番&第4番や「英雄ポロネーズ」、死期迫るなかで書き上げられた《マズルカ》op.68-4など、彼の後半生の創作が演奏される。

このリサイタルで、仲道はショパンの円熟期から最晩年までの作品を通して「円熟と哀しみ」を見つめていく。潤いあふれる美しい音によって、ショパンのデリケートな感情の綾を丁寧にたぐり寄せ、詩情に満ちた彼の世界を私たちに聴かせてくれるに違いない。

文・道下京子

## 仲道郁代 Ikuyo Nakamichi , Piano

日本音楽コンクール第1位、ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、メンデルスゾーン・コンクール第1位、エリザベート王妃国際音楽コンクール入賞。ピッツバーク響、バイエルン放送響、フィルハーモニア管、ドイツ・カンマーフィル、ハンガリー国立フィル、バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラ等、海外のオーケストラと共演多数。CDはレコード・アカデミー賞受賞CDを含む「仲道郁代ベートーヴェン集成～ピアノ・ソナタ&協奏曲全集」「ドビュッシーの見たもの」他。著書に『ピアニストはおもしろい』（春秋社）他。ベートーヴェン没後200周年の2027年に向けて「仲道郁代 The Road to 2027リサイタル・シリーズ」を展開中。一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。令和3年度文化庁長官表彰ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。



©Kiyotaka Saito

オフィシャル・ホームページ  
<https://www.ikuyo-nakamichi.com>